

1. 研究主題

平成29年度 伊深小学校 研究主題

どの子ども楽しく「わかる」・「できる」授業づくり

～ユニバーサルデザインの視点を取り入れた国語科・算数科指導の工夫～

2. 研究主題設定の理由

(1) 学校教育目標具現の立場から

本校の教育目標は、「明るく 笑顔あふれる 伊深っ子」である。児童が将来の夢や目標、進路の実現ができるよう、学習の基礎・基本を身に付けることを重点とし、具体的には、下記のような心や力をもつ「3つの子どもの姿」を育てることで、具現を目指している。

「学び合う」… 基礎的・基本的な学び方と内容を身に付ける。

「思いやる」… お互いの良さや成長を認め合い、協力し合う。

「やりぬく」… 何事もやりきる強い意志を持つ。

また、本校は、みのかも教育21FROM-0歳プランを推進するために「生きてはたらく真の学力をつけるための授業改革」を進めている。「確かな学力を付ける授業づくり」と「学び方指導・学習姿勢づくり」を柱に、授業改革のための様々な取り組みを続けている。

(2) これまでの研究・児童の実態から

「教育にユニバーサルデザイン化」をテーマに、授業に特別支援教育の視点を取り入れ、全員が「わかる」・「できる」授業づくりを目指してきた。支援の必要な児童にとって「ないと困る支援」は、他の児童にとっても「あると便利な支援」であることをコンセプトに、すべての児童が分かる喜びや学ぶ意義を実感できるような指導方法の工夫を試みてきた。

指導の工夫として、“論理を授業の目標”にして上で、授業を「焦点化」「視覚化」「共有化」の3点に視点を当てて本時を仕組むようにしてきた。ねらいや活動を絞ることで、児童は本時何をすればよいか明確になることが分かった。そして、絵や図、写真、動作化、具体物などで文章を視覚化することで、児童の思考や学習内容の理解の助けになることや仲間との意見交流によって、学習内容の定着につながることも明らかになった。

しかし、その一方で本校の実態として、学力状況調査において、国語A・国語Bともに記述式の解答率が低い傾向がある。さらに、算数A・算数Bについては、図形や数量関係が低い傾向にある。根拠をもとに説明することを通して、数学的な概念を身に付けさせていく必要がある。

このことから、今年度は「一人ひとり」というキーワードをもとに、より一人ひとりの実態を

把握し、学習状況を見届け、確かな学力の定着につなげるためのユニバーサルデザインを取り入れた指導の工夫を研究していきたい。また、外部講師による朗読を学ぶ授業を通して、相手意識をもって伝える力を育てていきたい。

3. 目指す児童の姿

- ・学習に楽しく意欲的に取り組む児童
- ・授業で「わかった」、「できた」と実感できる児童
- ・互いに関わり合う中で、自分の考えを深める児童

4. 研究仮説

児童のつまづきを予想し、焦点化・視覚化・共有化などの指導の工夫や個別の配慮を取り入れることで、どの子も「わかった」、「できた」と実感でき、互いに関わり合う中で、自分の考えを深める児童を育成することができるであろう。

5. 研究内容

(1) 研究内容1 「授業を焦点化する」「授業を視覚化する」「授業で共有化する」

【1 授業を焦点化する】

- ①ねらいの焦点化
- ②本時のねらいを達成するための 焦点化の場の設定とその手法
- ③児童の実態に合わせた手立ての工夫

【2 授業を視覚化する】

- ① 挿絵・写真・動作の効果的な活用と思考につながる工夫
- ② センテンスカード・図・色短冊などを使用した構造的な板書の工夫
- ③ 焦点化したい内容を視覚化する工夫

【3 授業で共有化する】

- ① 共有化する場の設定と指導の工夫
- ② 表現力を高める指導の充実

(2) 研究内容2 基礎・基本の定着と習熟のための支援法

【定着を図る】

- ① 一人一人に対応した効果的な言葉がけ・指導の工夫（赤ペン○つけ法）
- ② 授業の流れが分かる板書の工夫
- ③ 一時間の学習の定着を見届ける評価問題の工夫
- ④ 終末の確認問題の工夫